

# 心広やかに創価桜の道を！

わらの師・戸田城聖先生  
の祥月命日を前に、わが胸  
に蘇る音声がある。

それは1955年（昭和30年）、東北放送のラジオのインタビューに答えて語られた恩師の言葉である。

「共に手をつけないで、絶対的な幸福の境涯に行こうじゃないか」というのが、「われ々の目的なんです」と。

私も、录音の場に、一人、同席させていただいた。

この師匠の心を心として私たちは苦しみ悩む民衆の大地上に飛び込み、「冬は必ず春となる」という幸の創価桜の道を開いてきた。

今年も、恩師のお好きだった桜の開花前線が、南は沖縄・九州から北は北海道まで日本列島を染め上げる

中、4月2日から5月3日へ、我らは地涌の生命力でいやまして前進するのだ。

2022・3・29

池田先生と共に

## 新たな広布の勝利山へ

思えば、本年3月は、戸田先生が初の東北指導に赴かれてから70周年となる。

あの「二月闘争」の翌月であり、当時、蒲田支部と共に、全国の拡大を牽引したのが、仙台支部であったのだ。

先生は折々に「仙台支部に学べ！」と語り、発展の要因を三点にわたって宣揚された。

一、入会した友に学会精神が染み込んでいる。

一、リーダーが絶対の確信に立っている。

手に使いこなしている。

これは、あの「3・11」の未曾有の試練の中でも、不二の宝友が發揮してきた負けじ魂の底力である。

今月、東日本大震災から「福光11年」を迎えた。先日も激しい地震に見舞われ、心労は絶えないけれど

学生部、未来部の成長



も、地涌の旗頭たる東北同志の金剛不壞の絆は、多くの学識者からも「希望のモデル」と注目される。

混迷を深める時代にあって、私は恩師と不二の心で、声を大にして叫びたい。

「我らの東北に学べ！」と。

\* \*

今月、頼もしき男子部大

学校の入卒式が意気高く開催された。

\* \*

遠大な未来を見据えつゝ、地球民族の安穏を一段と強盛に祈り抜き、草の根の連帯を強く賢く麗しく築き広げていきたい。

も、田を見張るばかりだ。同世代の友とスクラム固く励まし合い、学会活動に駆けゆく一日一日が、どれほど尊いか。全てが「今生にんかい人界の思い出」となり、福音智となつて、わが身を飾る。日蓮聖人は、末法の時代相を、災害が打ち続く中で「広き心もせばくなり、道心ある人も邪見になる」（新1492・全1095）と喝破され、それゆえに争いが尽きないと憂慮された。この人々の心を、妙法の力で広やかに解き放ち、正しき生命尊厳の法理で結び合わせていくのが、広宣流布であり、立正安國である。「幾千年の平和の大計を立て、大聖人の御恩に報じ、民衆の万年の幸福を確立することこそ、創価の使命である」と、恩師は宣言された。